



# 体感教育だからこそ、わかる・活かせる 「トッパングループ安全道場」

安全に関する体感教育を行う「トッパングループ安全道場」。危険感受性の高い人材を育成するとともに、誰もが安心して働ける職場環境を永続的に維持していくことを目指しています。

## 体感教育で目指すゼロ災害

AIやIoTの導入が急速に進む製造業の生産現場。製造プロセスの高度化・省力化は、時に危険要因を見えにくくし、従業員の危険に対する感度を薄めてしまうことが、新たな課題として顕著になりつつあります。

また、若手従業員の多くは、幼少期より危険源が排除された安全な環境で育っており、危険への意識は低い傾向が見られます。さらに、団塊の世代を中心とするベテラン層の大量退職により、ノウハウ継承が困難となる中で、従業員一人ひとりの危険感受性をどのように向上させていくかが、産業界全体の課題となっています。

トッパンの労働災害発生率は、製造業としては非常に

低い水準で推移しています。しかし、発生ゼロにはならず、特に2009年には、重篤な労働災害を連続して発生させてしまいました。

こうした状況を鑑み、トッパンでは2010年に「安全衛生基本方針」を策定し、「安全はすべてに優先する」ことを宣言しました。そして、その宣言に基づき、新たに開設したのが「トッパングループ安全道場」です。業務に伴う危険性や実際の事故をもとに、教育体系も危険体感機も、企画段階からすべて自社でつくり上げ、「安全師範」による体感教育を展開。労災ゼロの要となる、危険感受性の向上を図っています。

### 安全文化を伝承する「安全師範」

技術の進化により、設備の安全性は高めることができても、それを扱う人の意識が伴わなければ、労働災害は無くなりません。生産現場に長く携わってきた経験を活かし、実体験に基づく事例もあげながら、安全作業の重要性を伝え、現場社員の危険感受性を高めていくことが、私たち安全師範の使命です。

現場での改善活動に直結するよう、新入社員、中堅社員、監督職など、階層ごとに危険体感機の種類や説明内容を変更。1組10名以下の体感教育を徹底しています。安全道場で学んだことを一人ひとりが現場で体現する。そして、受講生の視点に合わせた教育を定期的に行う。その繰り返しで、労災ゼロにつながっていくのだと思います。

### トッパングループ安全道場 師範



姉崎 美智男



橋元 幸一



小林 登



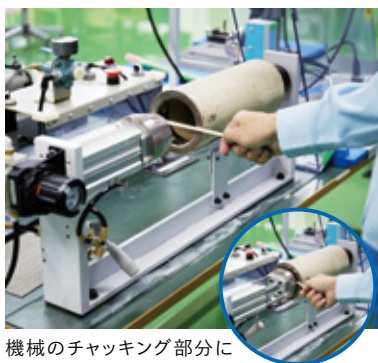
星 聖二



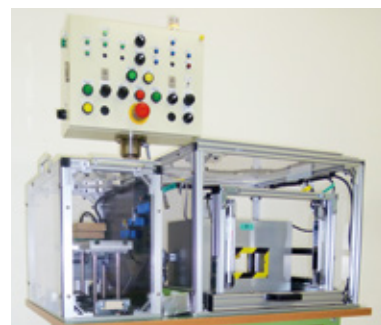
## 「見て・触って・学んで・考えて」改善活動につなげることができる道場



回転しているローラーに手が巻き込まれる危険を体感



機械のチャッキング部分に割箸を差し込み、挟まれた衝撃を体感



各種光センサーの紹介と正しい取り付け方、センサーから危険源までの適正な距離などを学習



工具類の正しい使い方を実習を通して学習



防毒マスクの着用による臭気の変化を通じて吸収缶の効能を体感



タコ足配線による電気火災の怖さと定格容量の遵守および電気火災の防止策を学習

## 全国の従業員へ、社外へ、海外へ広がる安全道場

安全道場は、埼玉県川口市の研修センター、兵庫県の滝野工場、福岡工場の3カ所に設置しています。この活動を全国に広げていくため、2011年からは「安全道場全国キャラバン」を開始しました。移動式の危険体感機をつくり、全国約40事業所を巡回し、社員のほか、パートや派遣社員なども含めて、受講率はほぼ100%を達成。現在は、キャラバン2巡目を展開中です。さらに、関連会社を対象とするキャラバンも別途展開しています。

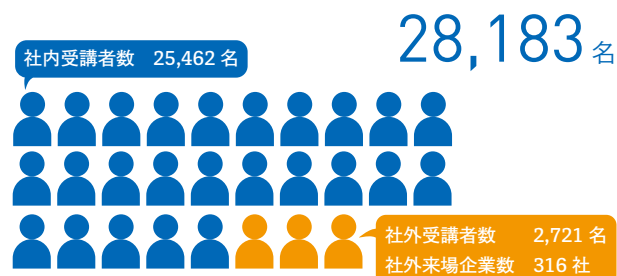
また、常設の安全道場では、外部企業の安全研修も受け入れています。食品、サービス、交通など、各企業の業種や要望を踏まえて、安全師範がそれぞれに適した教育メニューを提案。これまでに316社に体感教育を提供しており、受講された方からは、「疑似体験したことで、気持ちが引き締まりました」「現場ですぐに使える内容で嬉しいです」などの感想をいただいています。

2017年は、海外展開に着手しました。2017年10月にサイアムトッパン(タイ)に開設。続いて2018年1月には、トッパンリーフオン(中国)にも開設し、現地従業員に対する安全教育強化を図っています。

こうした取り組みの結果、2017年の労災発生件数は、

2010年比で約30%減少しました。今後も国内外における安全教育を強化し、トッパングループ一体となって、誰もが安心して働ける安全な職場環境の構築と、ゼロ災害達成を目指していきます。

### 「トッパングループ安全道場」の総受講者数



### 労働災害発生件数の推移

